

両股離断者に対する リハビリテーションにおける スタビライザー型ソケットの製作

宮谷 定行、谷 裕司

[川村義肢株式会社]

橋田 剛一、井上 悟

[大阪大学附属病院理学療法部]

三木 秀宜

[大阪大学附属病院整形外科]

一般に両下肢高位切断者のリハビリテーションは基礎訓練(残存機能の強化)、ADL訓練が重要といわれている。両股関節離断の場合、断端の状況により座位保持の獲得が困難な場合がある。断端の状況が良好な場合は、座位保持の獲得は容易なものとなるが、諸々の事情により断端の状況が芳しくない場合、上記訓練以外にも座位保持獲得のための問題点は多い。座位バランスの確保、断端部の荷重、義肢装着方法、座位姿勢でのプッシュアップ動作など、克服しなければならない問題は多数ある。

今回我々は、腹部大動脈塞栓症による両股関節離断という非常に稀な症例を経験した。断端部の治療と平行して理学療法を進める上で、座位保持の獲得を目的としたスタビライザー型ソケットを製作した。訓練においてこのソケットが大きな役割を果たし、座位の確保や移乗動作などに良好な結果を得ることが出来た。複雑な断端形状や皮膚状況、臼蓋部の形成の未熟、仙骨部の褥瘡など、いくつかの問題点に対し検討した結果を採型から製作、適合までを報告する。
